

1 平成21年10月の消費者物価指数等

- 広島市総合指数（100.5）は前月比で3か月ぶりに下落（▲0.5）。前年同月比は7か月連続で下落し、下落幅（▲2.6）は比較可能な昭和45年以降で、4か月連続で最大となった。
- 生鮮食品を除く総合指数（100.8）は前月比で2か月ぶりに下落（▲0.2）。前年同月比は7か月連続で下落し、下落幅（▲2.3）は平成21年8月と同じく、比較可能な昭和45年以降で、最大となった。
- 食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数（99.0）は前月比で下落（▲0.1）。前年同月比は7か月連続で下落し、下落幅（▲1.4）は比較可能な平成17年以降で、3か月連続で最大となった。

2 総合指数，生鮮食品を除く総合指数，食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数

	指 数	前月比 (%)	前年同月比 (%)
総 合 指 数	100.5	▲0.5	▲2.6
生鮮食品を除く総合指数	100.8	▲0.2	▲2.3
食料（酒類を除く）及びエネルギーを除く総合指数	99.0	▲0.1	▲1.4

3 前月からの動き

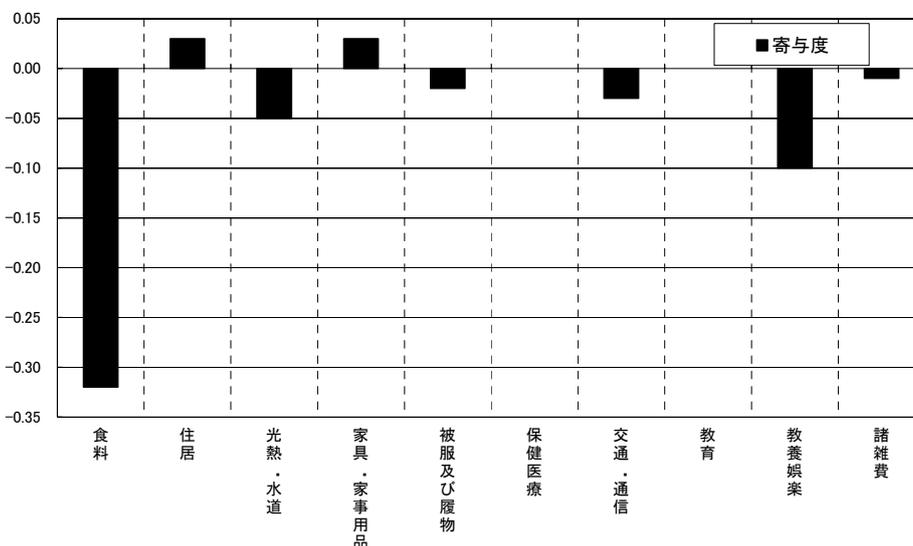
～住居，家具・家事用品のみ上昇。食料，教養娯楽を中心に下落。～

(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
指 数	100.5	103.4	100.3	103.1	86.7	108.3	97.7	98.2	106.0	94.4	101.6
前月比 (%)	▲0.5	▲1.1	0.1	▲0.8	1.2	▲0.4	0.1	▲0.2	0.0	▲1.0	▲0.2
寄与度	▲0.46	▲0.32	0.03	▲0.05	0.03	▲0.02	0.00	▲0.03	0.00	▲0.10	▲0.01

(参考) 主な要因となっている10大費目について、寄与の大きかった中分類項目
 食 料 : 野菜・海藻（前月比 ▲6.2%，寄与度▲0.16）等
 教 養 娯 楽 : 教養娯楽用品（前月比 ▲2.6%，寄与度▲0.06）等

図1 10大費目別前月比寄与度



(注) 寄与度：物価全体（総合）の上昇（下落）に、各費目がどれだけ影響したかを示したものの。本来、寄与度の合計は、総合指数の前（年同）月に対する変化率となるが、四捨五入の関係で一致しない場合がある。

(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上 昇		下 落	
項 目（主な品目名）	前月比	項 目（主な品目名）	前月比
家賃（持家の帰属家賃〔非木造中住宅〕等）	0.2%	野菜・海藻（はくさい等）	▲6.2%
寝具類（布団等）	9.7%	魚介類（あじ等）	▲3.4%
飲料（インスタントコーヒー等）	1.8%	調理食品（冷凍調理コロッケ等）	▲2.6%
菓子類（チョコレート等）	0.9%	教養娯楽用品（ペットフード〔ドッグフード〕等）	▲2.6%
洋服（婦人スラックス〔ジーンズ〕等）	0.7%	ガス代（都市ガス代等）	▲2.1%

(参考) 寄与の大きかった品目（上位2位）

上昇：布団，宿泊料等

下落：冷凍調理コロッケ，外国パック旅行等

4 前年同月からの動き

～食料，光熱・水道，交通・通信が主な下落要因で，7か月連続の下落。～

(1) 10大費目の動き

	総合	食料	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
前年同月比 (%)	▲2.6	▲1.9	▲0.4	▲8.7	▲7.6	▲0.7	▲1.6	▲4.6	0.9	▲3.3	▲1.5
寄与度	▲2.58	▲0.52	▲0.07	▲0.62	▲0.25	▲0.04	▲0.07	▲0.64	0.04	▲0.33	▲0.09

(参考) 主な要因となっている10大費目について，寄与の大きかった中分類項目

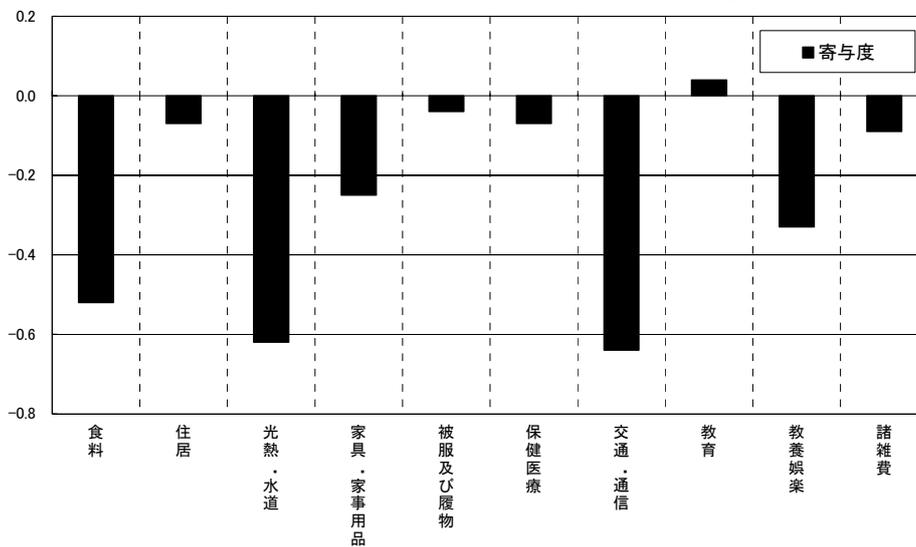
交通・通信：自動車等関係費（前年同月比▲7.2%，寄与度▲0.55）等

光熱水道：ガス代（前年同月比▲14.4%，寄与度▲0.33）

他の光熱（前年同月比▲38.0%，寄与度▲0.19）等

食料：野菜・海藻（前年同月比▲8.4%，寄与度▲0.22）等

図2 10大費目別前年同月比寄与度



(2) 総合指数に対する寄与の大きかった中分類項目（寄与度順）

上 昇		下 落	
費 目（主な品目名）	前年同月比	費 目（主な品目名）	前年同月比
菓子類（キャンデー等）	2.6%	自動車等関係費（ガソリン等）	▲7.2%
外食（コーヒー〔外食〕等）	0.6%	ガス代（都市ガス代等）	▲14.4%
洋服（婦人スーツ〔秋冬物〕等）	1.4%	野菜・海藻（レタス等）	▲8.4%
保健医療サービス（出産入院料〔公立〕等）	1.2%	他の光熱（灯油）	▲38.0%
設備修繕・維持（浴槽等）	0.8%	教養娯楽サービス（外国パック旅行等）	▲2.3%

(参考) 寄与の大きかった品目（上位2位）

上昇：トレーニングパンツ，浴槽等

下落：ガソリン，都市ガス等

総じて下落基調、今後も注視が必要

平成 21 年 11 月 20 日公表の月例経済報告（内閣府）によると、「物価の動向を総合してみると緩やかなデフレ状況にある」とされています。

現在の広島市の状況を見ると、平成 21 年 10 月の物価総合指数は、前年同月比で 7 か連続の下落、下落幅はこれまでの最大を 4 か月連続で更新しています。

そこで、今月はこの下落の要因について、みていくことにします。

図 1 総合指数は平成 19 年後半から前年同月比で上昇（図中 A）し、平成 20 年 10 月に指数では最大（図中 B）となりました。

この間、主にエネルギー指数と生鮮食品を除く食料指数（以下「食料指数」という。）が上昇に寄与していましたが、平成 20 年 12 月以降では、エネルギー指数は下落に寄与し、平成 21 年 7、8 月に前年同月比でのエネルギー指数の下落幅は最大となりました（図中 C）。

直近ではエネルギー指数の下落寄与は縮小しており、その他の費目の下落寄与が拡大しています（図中 D）。

図 2 エネルギー指数上昇の要因の一つになった原油価格をみてみると、平成 21 年に入ってから緩やかに上昇を続けており、直近では前年同月とほぼ同水準となっています。

図 3 図 1 をみると、平成 20 年に上昇に寄与した食料指数は、平成 21 年以降の総合指数の下落局面において、それほど下落に寄与していません。

この要因の一つとして、政府の輸入麦価格改定に時間差が生じるため、原材料価格が下がりにくいことが考えられます。

政府の輸入麦売渡価格は 10 月からようやく、平成 19 年の水準に近くなったことがわかります。

図 1 総合指数及び前年同月比に対する寄与度（広島市）の推移

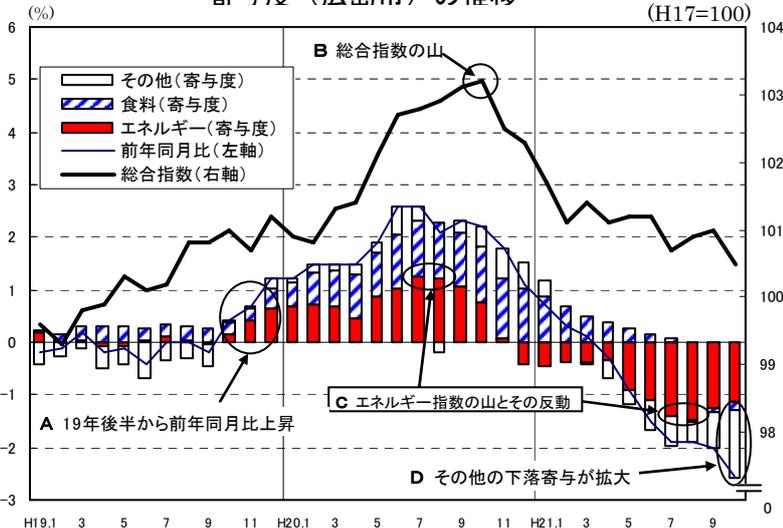


図 2 広島市ガソリン価格と WTI 原油価格の推移

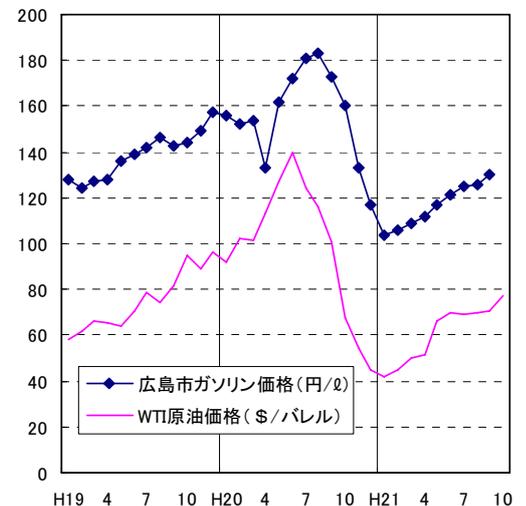
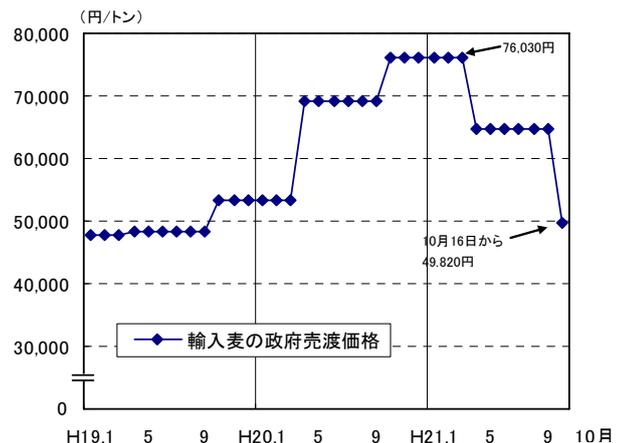


図 3 輸入麦の政府売渡価格の推移



これらから、総合指数では平成 20 年 10 月の最大値の反動で、平成 21 年 10 月は最大の下落幅となり、今後は前年同月比での下落幅は縮小するものと考えられます。

しかし、エネルギー指数の下落寄与が縮小する中、その他の費目で下落が目立ち始めたため、デフレ懸念が払拭されたわけではありません。

食料指数については、徐々に原材料価格が引き下げられることから、下落基調にあるといえます。

原油価格などに再び上昇の兆しがみられるものの、物価指数は総じて、下落基調にあり、今後も注視する必要があります。

※ 農林水産省HPから